

令和4年度岡山県献血推進協議会

血液事業の概要

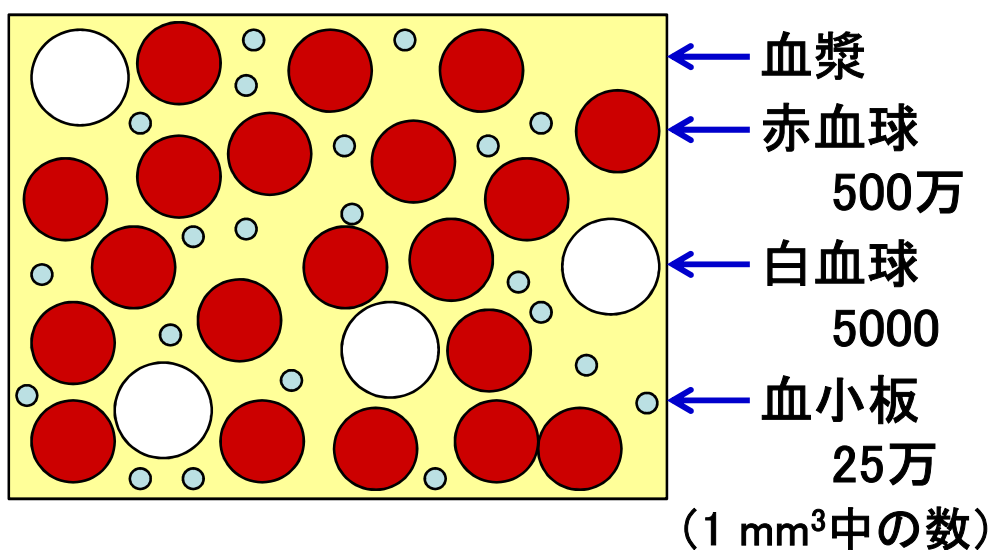


日本赤十字社
Japanese Red Cross Society

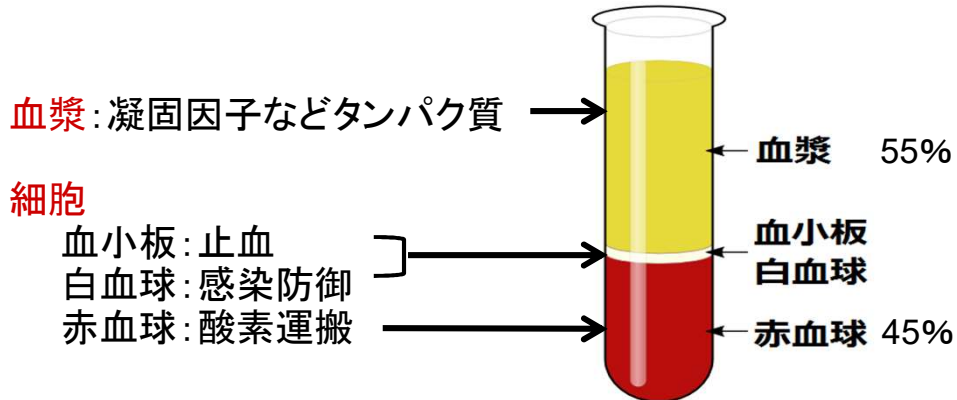
岡山県赤十字血液センター

所長 池田 和真

血液



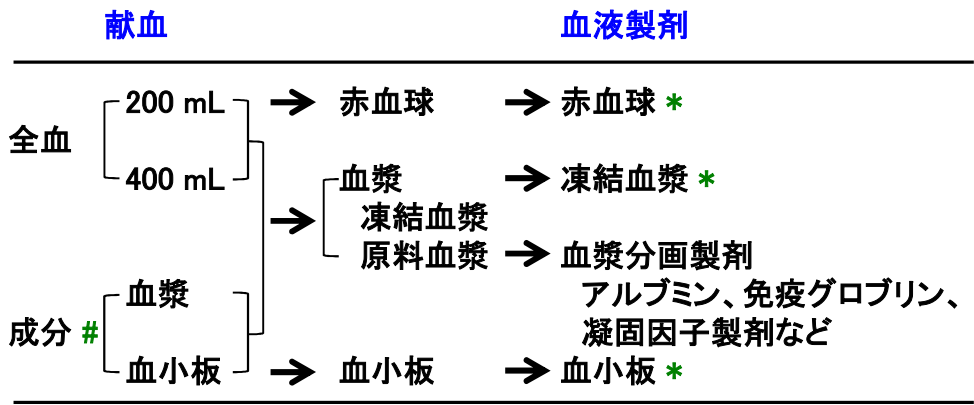
血液 = 血漿 + 細胞



献血方法別の採血基準

採血の種類	全血採血		成分採血	
	200mL	400mL	血漿	血小板
1回採血量	200mL	400mL	600mL以下（循環血液量の12%以内）	
年齢	16～69歳	男性:17～69歳 女性:18～69歳	18～69歳	男性:18～69歳 女性:18～54歳
	ただし、65～69歳の者については、60歳に達した日から65歳に達した日の前日までの間に採血が行われた者に限る。			
体重	男性45kg以上 女性40kg以上	男女50kg以上	男性45kg以上 女性40kg以上	
最高血圧	90mmHg以上180mmHg未満			
最低血圧	50mmHg以上110mmHg未満			
脈拍	40回/分以上100回/分以下			
体温	37.5℃未満			
血色素量	男性:12.5g/dL以上 女性:12.0g/dL以上	男性:13.0g/dL以上 女性:12.5g/dL以上	12g/dL以上 (赤血球指数が標準域*にある女性は11.5g/dL以上) *標準域 MCV: 81～100fL MCH: 26～35 (pg) MCHC: 31～36 (%)	12g/dL以上

献血と血液製剤



- # 成分献血は、固定施設(血液センター及び献血ルームのみ)
- * 輸血用血液製剤;原則として、ABO同型を用いる

輸血用血液の種類



赤血球製剤



新鮮凍結血漿



血小板製剤

輸血用血液の種類



出血による貧血や
慢性貧血には

赤血球

血小板の減少・
機能異常による
出血傾向には

血小板

肝障害などによる
凝固因子の補充
には

新鮮凍結血漿

血漿分画製剤

アルブミン製剤

免疫グロブリン製剤

血液凝固第Ⅷ因子製剤

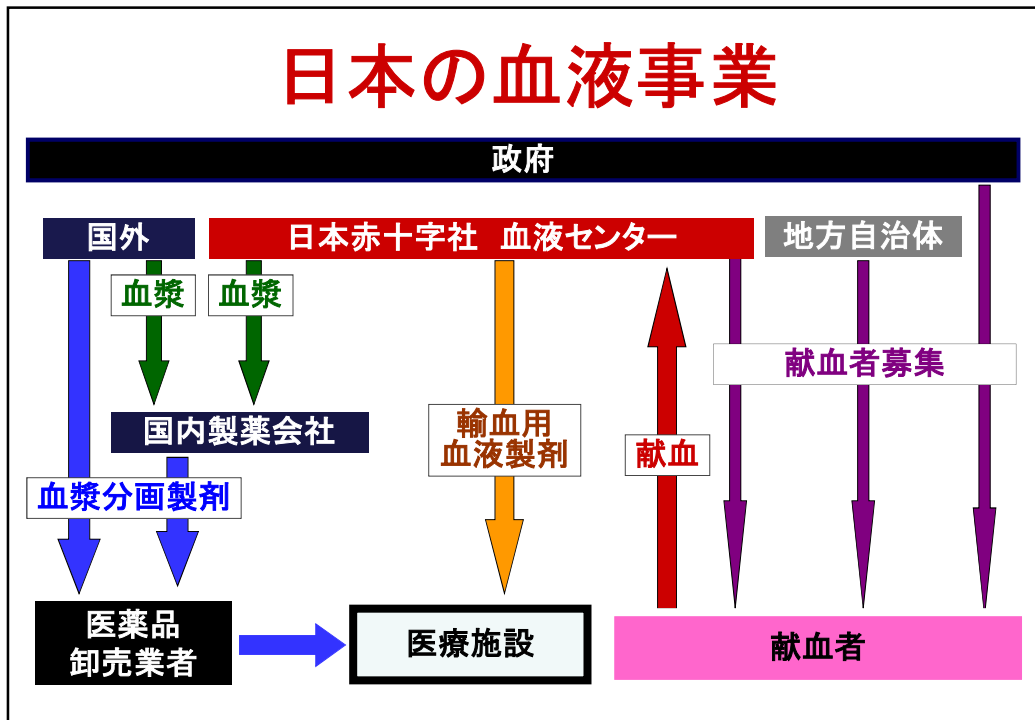


血漿に含まれるアルブミン、免疫グロブリン、血液凝固因子等のタンパク質を分離し取り出した製剤。

アルブミン製剤はやけどやショック等の際に、免疫グロブリン製剤は重症感染症の治療や、ある種の感染症の予防や免疫機能が低下した場合等に、凝固因子製剤は血友病等に用いられる。

厚生労働省医薬・生活衛生局血液対策課「令和2年度血液事業報告」より一部抜粋

日本の血液事業



血液法：基本理念

- 1 安全性の向上に常に配慮して、
製造、供給、使用
- 2 国内自給の原則と安定的供給
- 3 適正使用
- 4 公正の確保及び透明性の向上

関係者の責務

国(厚生労働省)

- 血液事業の基本的政策の策定
- 献血に関する国民の理解及び協力を得るための教育・啓発
- 血液製剤の適正な使用の推進に関する施策の策定・実施

地方公共団体

- 献血に関する住民の理解
- 献血受入を円滑にするための措置

関係者の責務

採血事業者(日本赤十字社)

- 献血受入の推進
- 安全性の向上、安定供給確保への協力
- 献血者保護

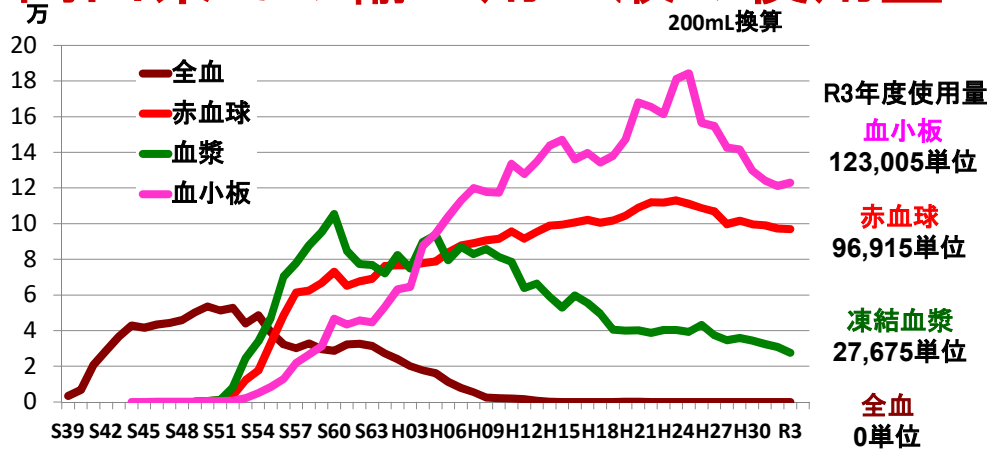
血液製剤の製造販売業者

- 安全な血液製剤の安定的・適正な供給
- 安全性向上のための技術開発と情報収集・提供

医療関係者

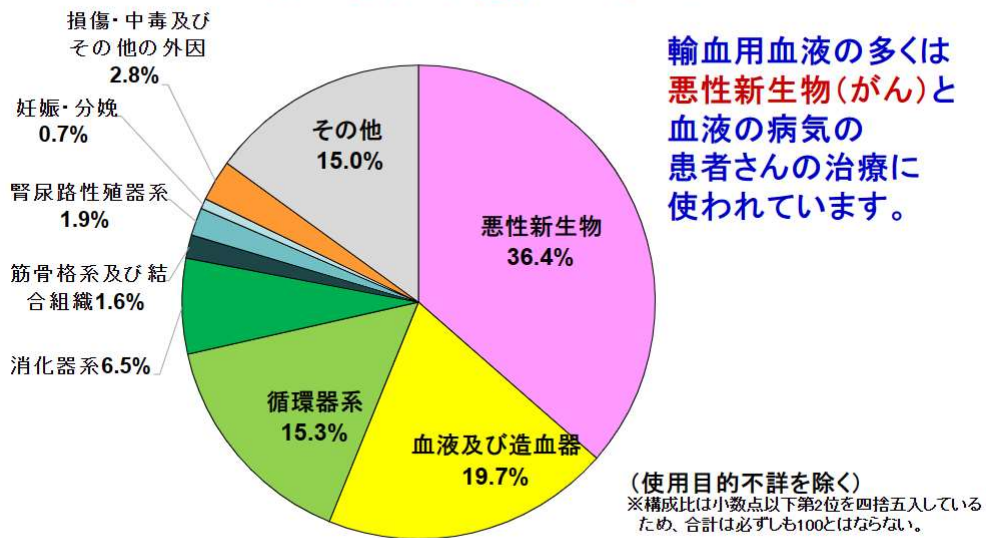
- 適正な使用
- 安全性に関する情報収集・提供

岡山県での輸血用血液の使用量



凍結血漿はS60年代以後、血小板と赤血球はH25年以後、減少している

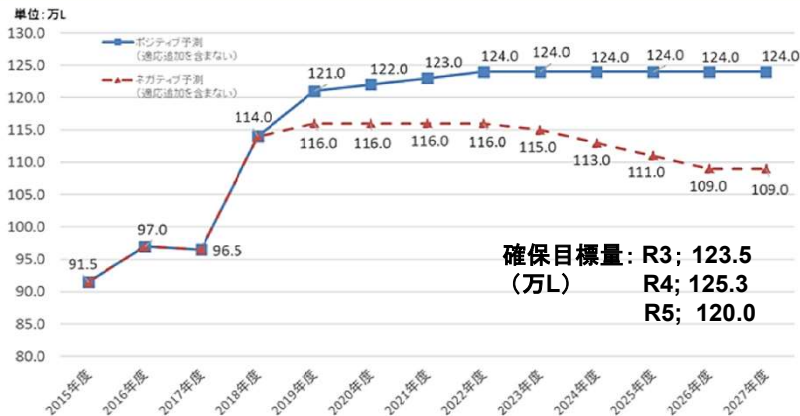
疾病別輸血状況



※東京都福祉保健局「令和元年東京都輸血状況調査集計結果(概要)」より

血漿分画製剤用原料血漿の必要量の増加

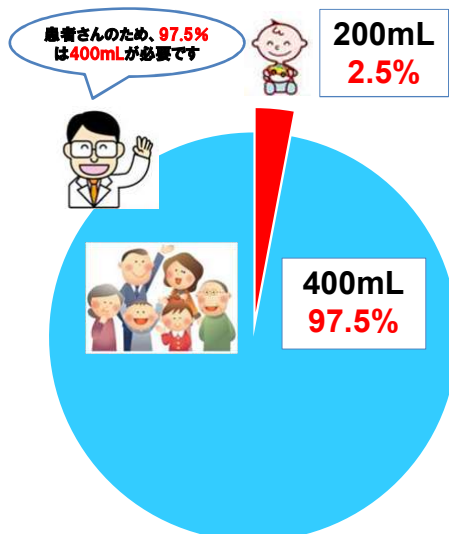
必要原料血漿量の予測(国内の免疫グロブリン市場予測から)



※国内血漿分画メーカー各社の免疫グロブリン国内市場予測から血液対策課作成
2018年度までは原料血漿配分実績
新たな適用拡大による需要増は見込んでいない

新たな適用拡大が順調に進めば、さらに15万L程度の原料血漿が必要(時期は未定)と予測
薬事・食品衛生審議会薬事分科会血液事業部会平成30年度第4回運営委員会資料より

患者さんが必要とする赤血球の内訳



200mLを2本の代わりに
400mLを1本輸血すると

・輸血副作用の可能性が低下

医療機関で輸血される赤血球製剤

・97.5%は400mL献血由来

※令和3年度データより

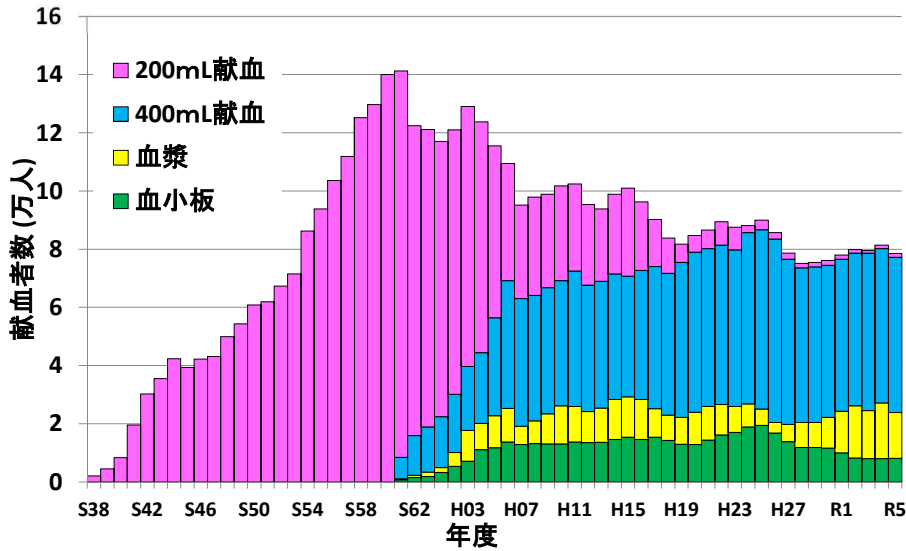
岡山県赤十字血液センターの方針

・基本: 400mL献血

・2.5%: 200mL献血

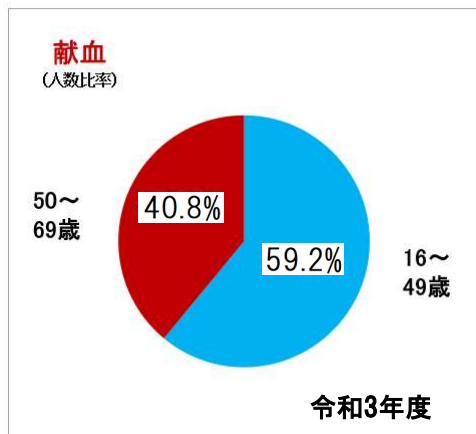
高校生、大学生等の若年層の
初回献血を中心

岡山県の総献血者数の推移

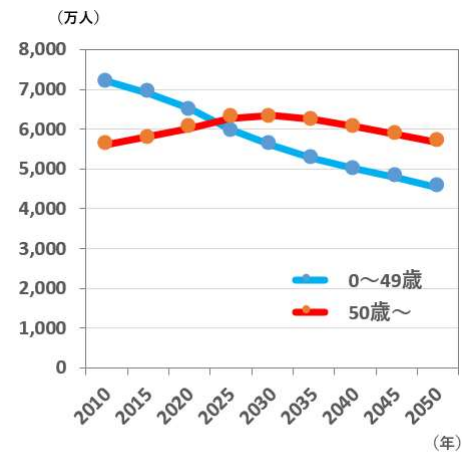


●総献血者数は400mL・成分献血の推進により、昭和61年度の141,205人をピークに減少している

岡山県の年齢別輸血・献血

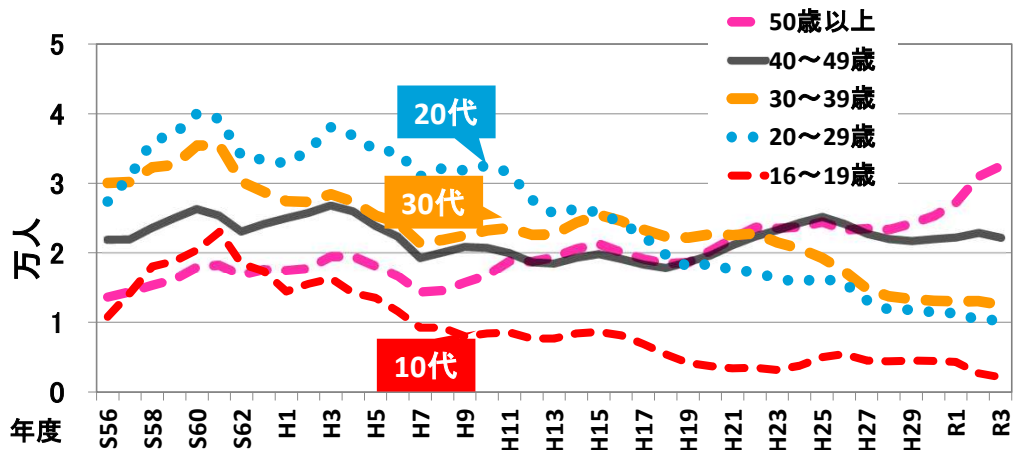


全国の人口推移と推計



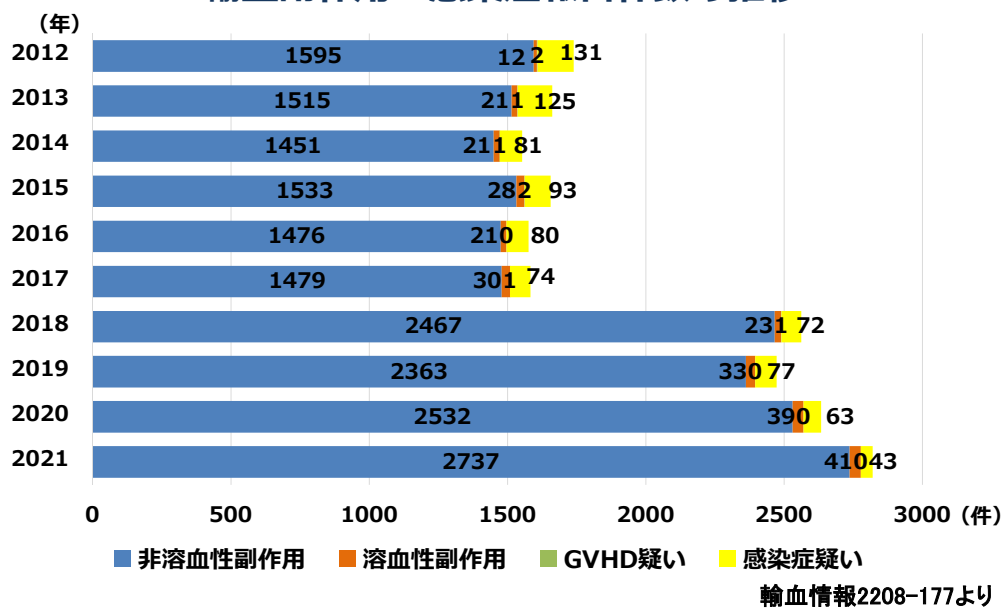
総務省統計局:各年10月1日現在人口「全国:年齢(各歳),男女別人口」

岡山県の年代別献血者数の推移



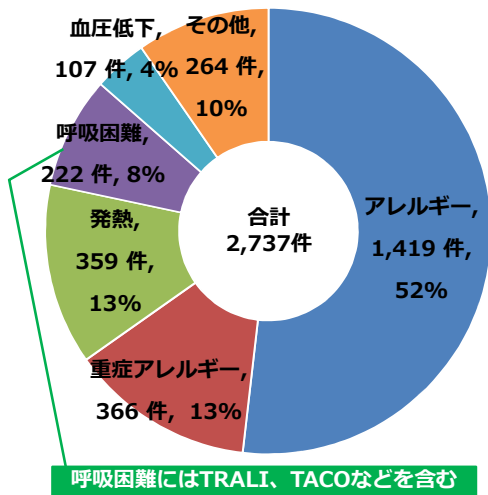
10年前の平成23年度と比較すると10代~30代の献血者数が15,940人(約39%)減少している。少子高齢化に対応するため、10代~30代の献血者数の増加が望まれる。

赤十字血液センターに報告された輸血副作用・感染症報告件数の推移

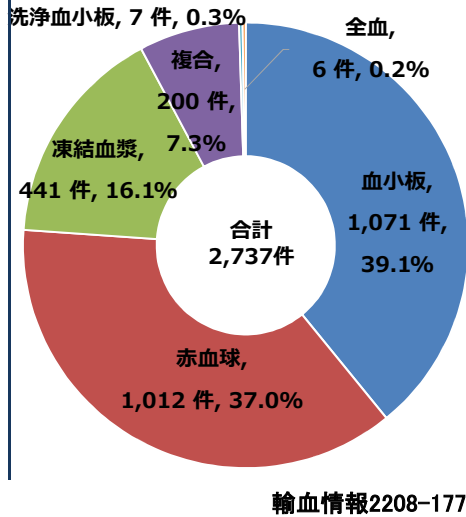


赤十字血液センターに報告された 非溶血性輸血副作用（2021）

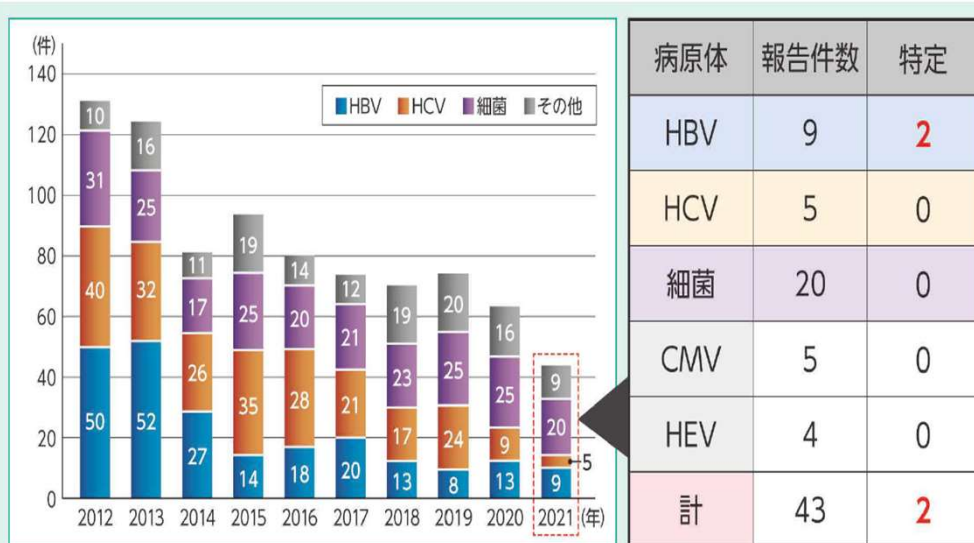
副作用の種類



使用製剤の種類

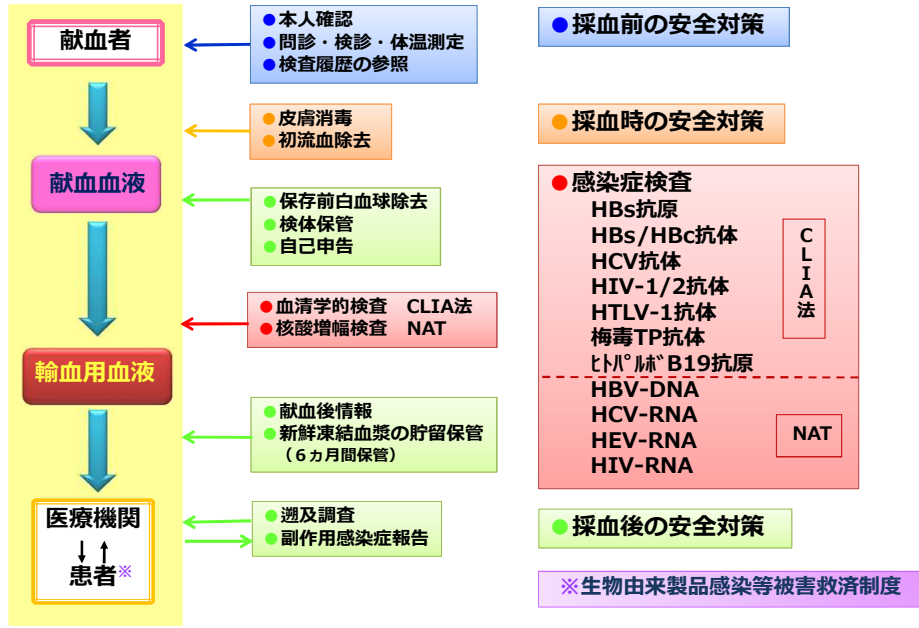


感染症報告件数 -2021年-



輸血情報2208-176より

輸血用血液製剤の安全対策



ご静聴有難うございました

